

総 括

夏期日本語教育ディレクター

佐藤 豊

今年度の夏期日本語教育は約 20 カ国から 142 名の受講生を迎えた（うち、3 名は、学内の教員 2 名と、そのうち 1 名の配偶者であった）。7 月 4 日（月）の登録日に始まり、8 月 16 日（火）に終了した。去年ほどではないものの、やはり暑さに悩まされたが、142 名全員が無事修了することができた。

ご協力いただいた地域のホストファミリー、学生ボランティア、地域のボランティアの方々に感謝したい。

1 クラス編成

本年度も、初級 3 レベル、中級 3 レベル、上級 1 レベル、帰国生 1 レベルの合計 8 レベルのコースを設置した。受講生人数が多かったため、C2、C3、C4 のクラスを 2 セクションに分け、全体で 22 クラスとなり、それを講師 24 名で運営した。

2 カリキュラム

JLP のカリキュラムに合わせて、70 分授業を 3 コマずつ、月曜日から金曜日まで行った。JLP とは異なり、期末試験等を授業時間に組み込んでいるため、それを補うべく午後の特別クラスを計画していたが、当日大型台風が東京に接近し、中止された。来年も、特別講義の時間を日本語のクラス内容に統合するなどの手段により午後の時間を有効に使う方策を講じて行きたい。

また、JLP において中級 3 レベルのテキストを変更したことを受け、いち早くサマーコースでは、その新しいテキストを使って教えることとなった。そして、その経験を秋からの JLP に活かすことができたと思う。

3 宿 舎

ホストファミリーと合わずに寮に移る学生が例年 1・2 名ほどいるが、今回は 1 名もそのような学生がいなかった。ホストファミリーとうまく行かなかった学生は 2 名ほどいたが、何度もの話し合いの結果、退出せずに済んだ。昨年より個別にホームステイ学生と面談することを始めたが、その効果があったのではないかと思われる。心配されたほどの猛暑にならず、既存寮でも大きな問題はなかったものの、暑さのために体調を崩した学生はいたようだ。学生部の提案に従い、今年からは既存寮を使用せず、学外の学生会館を利用することとした。近い将来に新寮ができることになっているので、それにも期待をしたい。

4 減額プログラム

応募者が多数であり、多くの学生の受講を断わらざるを得なかったことから、減額プログラムは利用しなかった。

5 非常事態への対策

台風や地震などの被害が日本各地で頻発することから、今年は緊急連絡のために、連絡網を作った。個人情報の保護に配慮しつつも、緊急連絡のために今後も連絡網／メーリングリスト等の作成を行っていききたいと思う。

6 講師の処遇

海外など遠くから講師として参加していただいた場合、サマーコース開講の間、学内などの施設に滞在することになるが、それに対して特別な配慮を希望する声が聞かれた。特別措置を取るべく対策を講じたが、財政緊縮の現状において具体的な対策は見つからず、今後の懸案となっている。

提携校からの受講生、あるいはそれに準ずる受講生の数が増え、それ以外の学生（“general”の学生）の受け入れを圧迫し始めている。今年は、トロント大学から10名ほどの学生を受け入れることになっている。すなわち、サマーコースは、実質的にはJLPの夏期版としての役割を果たしている。その質を維持するためにこれからも一層のカリキュラム改善の努力をしていきたい。